



防災・危機管理分科会

会場 京都テルサ (西館 1F テルサホール) [京都市南区東九条下殿田町 70 (新町通九条下ル)]

交通 京都市営地下鉄烏丸線「九条駅」4番出口より徒歩5分
JR「京都駅」八条口西口より徒歩15分
近鉄京都線「東寺駅」より徒歩5分

10月25日(金) プログラム(13:00開始)

13:00

1 駅務室における電気火災事故防止の取り組み「トラッキング現象撲滅対策など」

東京急行電鉄(株) 武蔵小杉駅
鉄道事業本部 運輸営業部 武蔵小杉駅 係長

野村 雅規

埃が蓄積しやすい環境の駅事務室は、長年挿したままのコンセントプラグに埃が蓄積していて、電気火災が発生する危険があった。そこで、室内の整理や埃が付着しない蓋を設置、また職員への電気火災予防の研修を実施して「トラッキング現象撲滅対策」と称し、職場全体で取り組んだ。

13:20

2 北海道胆振東部地震を経験したことで会社としての対応・対策・良悪、更なる進化へ

有楽製菓(株) 札幌工場
生産本部 TPM推進課 課長

福士 英一

防火防災部会活動の取り組み想定で、備蓄品の準備・災害時の対策は万全だろうと思っていた。そこに北海道胆振東部地震という大規模な地震が発生、その直後北海道全域を襲う停電を経験し、良かった事や悪かった事を経験し今後活かす活動と進化する過程を報告する。

13:40

3 日本企業はインシデントコマンドシステムをどう適用すべきか～当社事例に基づく考察～

国際石油開発帝石(株)
HSEユニット セキュリティ・危機管理グループ コーディネーター

寺西 孝裕

国内外で操業現場を持つ当社では、業界内の緊急時対応の国際的スタンダードであるインシデントコマンドシステム(ICS)を適用している。本発表では、当社での適用事例を踏まえ、ICS適用を推奨できる日本企業と、適用に向けた具体的な取り組み例を紹介する。

(14:00～14:10 休憩) 14:10

4 BCP体制の強化～クラウドサービスを活用し災害時のリアルタイムな情報共有を実現～

(株)SCREEN ビジネスエキスパート
環境サステナビリティ事業部 EHS マネジメント部 企画課

黒川 善公

災害時、人を介した情報の伝達では間違いが必ず起こる。企業が事業継続を行うためには誤った情報より引き起こされる混乱は、絶対に避けねばならない。当社では、2016年にクラウドサービスを使った情報共有システム「BOUSAIZ」を導入。危機管理体制の強化を図っている。

14:30

5 災害心理学を取り入れた企業防災～正常性・同調性 バイアスを考慮した防災訓練の実証～

有楽製菓(株) 豊橋夢工場
TPM推進課 主任

浅井 梓

2018年台風24号により東海地方で大規模停電が発生し、弊社工場も被害を受けた。これを機に「なぜ人は災害リスクを見誤るのか」に焦点をあて、検証実験を行った。結果、工場等の集団行動を求められる状況では、集団同調性バイアスの働きで逃げ遅れるリスクが高いことが分かった。

14:50

講演 現場力の低下を踏まえたこれからの安全管理

東京工業大学大学院
環境・社会理工学院 イノベーション科学系・技術経営専門職学位過程 特任教授

中村 昌允

化学プラント事故をはじめ、多くの事故における「技術者の判断と行動」等を研究してきた講師が、自身の経験や爆発等の事故事例を紹介しながら、近年懸念されている「現場の対応能力低下」を踏まえ、今後の安全管理、危機管理について解説する。

15:50